

いいまち 議会だより



〈12月定例会〉

議会主催の住民懇談会
井戸端会議 p 2 ▶ 3

10人が町政を問う
p 10 ▶ 19

町民の声を議会に
いいじま手打ち蕎麦の会
p 20

第72号 平成28年1月15日
発行：長野県飯島町議会

まちの駅出発進行

井戸端会議

発想力をもってまちづくりを

議会主催の住民懇談会を10月14日(水)に、飯島成人大学センターを会場に昼夜2回開催しました。

昼の部は小さな子どものいる人も参加しやすい時間帯とし、気軽な発言ができるように分散会形式の懇談会にしました。

〈懇談のテーマ〉 子育てしやすいまちに
活力ある元気な町に
高齢者が安心して暮らせる町に
その他

昼の部

子育てしやすいまちに

- ・学童保育の終了時間を6時以降まで延長をしてほしい。
- ・学童保育を七久保でも開催してほしい。
- ・子育て支援センターなど、お母さんの集まる場所へ議員が来て懇談してほしい。

活力ある元気な町に

- ・買い物弱者のための配達システムが必要。
- ・消防団員の確保が問題になってきている。
- ・4区がバラバラであり、まとまりのある町づくりを望む。
- ・町全体が一つになるようなイベントが必要ではないか。
- ・若者が町の魅力をどう感じているか疑問だ。
- ・4区の壁は若者間ではほとんどない。若者だけの組織を作り地域づくりや町活性化に取り組んで欲しい。

- ・イベントの立ち上げ・持ち方が大事。
- ・学校行事と重ならないようにする。
- ・人を呼びやすい、子供と一緒に参加出来るようなイベントに。
- ・周知の方法は、町の広報・回覧板・有線放送の他、ラインの活用も。
- ・自治会の未加入者への対応で、特にゴミの処理が問題。

その他

- ・防災訓練に女性や学生も広く参加してもらい、災害時にどの程度対応できるのか、体験が必要だと思う。
- ・避難場所は耕地・自治会の枠を越えた見直しが必要だ。
- ・子供たちに良い映画を見せたいので、シネマ用プロジェ

クタの導入を町へ要望して欲しい。

(いいちゃんまちづくり連絡協議会より)

夜の部

活力ある元気な町に

- ・町全体での地域づくりを考えていない。
- ・商店が無くなり、飯島町で買いたい物が出来なくなってきた。
- ・空き家が増えている、空き家の活用が必要。
- ・現在、夜の診療は昭和病院が頼りだ。

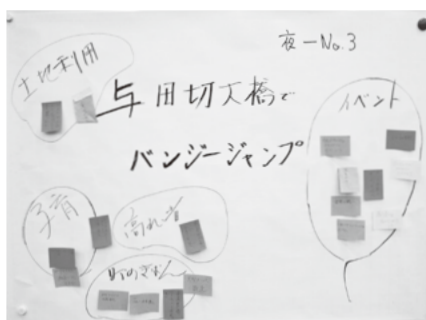


赤ちゃんもいっしょ

- ・医師不足解消のため、地元の
子供に医者になり帰ってきて
もらう。
- ・道の駅（田切の里）を地元住
民の拠点施設と位置付け、田
切住民として活性化に頑張り
たい。
- ・「一般社団法人 月誉平栗の
里」とも連携したい。
- ・伊南バイパス鳥居原地域の活
用を考えているか。
- ・町商工会は、全線開通に対し
危機感を持っているのか。
- ・町への店舗誘致が難しいと言
うが、町は企業の努力でアピ
ールポイントを高めるように
働きかけが必要。
- ・本来町が行うことを区会に多
く負担させている。過去に婦
人会・若妻会が町からの業務
負担（役員など）が増え解散
に至っている。区の負担軽減
を。（危険区域の作業等）
- ・若者の活躍が町の活性化につ
ながるので、若者が意見を出
しやすい環境づくりが必要。

（年寄りはお口を出すな）

- ・人口増と言いながらUIター
ンの人たちをよそ者扱いする。
- ・都会から来た人は思っていた
こととの落差が大きい。どう
するか考えて。
- ・農振農用地でも農業に不向き
な土地は農振計画の変更整備
を。
- ・土地利用計画により優良農地
区域と工場用区域を線引きし、
企業誘致の促進を。
- ・民間に任せるところは民間に。
- ・税の未納問題の対策を。
- ・「与田切大橋」でバンジージ
ャンプをしたらどうか。



ワークショップで意表をつく意見も

高齢者が安心して暮らせる町に

- ・街中で高齢者が生活できるよ
うに、スマートシティを考え
ていくことも今後大事では。
- ・利便効率優先でなく、今住ん
でいる場所で幸せに暮らせる
方策が大事。

今回も、参加された皆様の町
に対する熱い思いを感じることが
出来ました。

今ある町の課題を整理しなが
ら、実現のためにはどうすれば
良いか、いくつもアイデアが
出されました。

また今回は、各区会の皆様の
参加もあり、活発な意見交換が
行われました。

懇談会を通じて出されたご意
見は真摯に受け止め、今後の議
会活動に生かしてまいります。

私たち議会や議員が解決でき
るものは解決に向けて取り組み、
できないものは町へつなぎ、町
民全体の向上、町政の発展に寄
与してまいります。

山地災害に備える

林務委員会と合同研修会 10/23

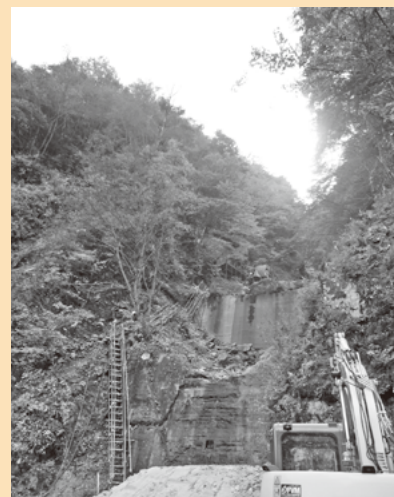
議会は町林務委員会と合同
で研修会を行いました。

シオジ平自然園に向かう一
ノ谷の復旧治山工事現場を視
察し、伊那谷総合治山事務所
の佐々木監督官から、山腹工
の危険を伴う作業内容の説明
を受けました。

また、今年度までの林道横
根山線沿線治山事業・林道改
良事業の実施箇所と予定工事
箇所を確認しました。

視察後に、同事務所の中村
技術専門官から「民有林・国
有林直轄治山事業」の研修を
受けました。

議員からは『間伐材を売り
払っているが、その金額以上
に投資している。生産の場と
しては限界が来ており、飯島
の山ではなく国策としての林
政を行ってほしい』と要望が
ありました。



危険な現場 一ノ谷

農地集積協力金で農業基盤を強化 6098万円

平成27年12月定例会は8日から22日までの15日間の会期で開催されました。
初日に平成27年度補正予算案7件、条例案3件、人事案件1件を審議可決しました。
条例案6件、陳情10件は2つの常任委員会に分割付託し、委員会審査結果どおりこれらを最終日に可決・採択しました。
副町長人事案件が提出され、唐澤隆氏の選任に同意しました。
また、議員発議の決議6件、意見書3件を提出し、本会議で討論採択しました。
一般質問には、10人がたち町政をただしました。

補正予算

一般会計総額

47億9431万円に

主な補正財源

国から

- 障がい者自立支援給付費負担金 133万円
- 障がい児通所給付費等負担金 233万円

県から

- 障がい児通所給付費等負担金 116万円
- 農地集積協力金 6099万円
- 県市町村振興協会基金交付金 311万円

主な使い道

- 人件費 ▲1068万円
- 郵便料 223万円
- 役場庁舎光熱水費 120万円
- 個人番号カード交付関係経費 152万円
- 国民健康保険特別会計繰出金 ▲409万円
- 障がい福祉サービス給付費 226万円
- 養護老人ホーム施設入所措置費 145万円
- 後期高齢者医療特別会計繰出金 ▲769万円
- 障がい児通所等支援事業 466万円

- 高齢者インフルエンザワクチン 102万円
- 母子保健相談室エアコン設置工事 123万円
- 農地地域集積協力金 6098万円
- アンテナショップ運営業務 ▲197万円
- 融雪剤 200万円
- 予備費 795万円

債務負担行為補正*

- 公用大型バス 2400万円
- 現在の大型バスが老朽化しているので平成28年度から5年間のリースで29人乗りバスを導入。導入に1年ほど要するので、今年度に契約を行うため。

*当該年度の歳出予算や法律などによらないで、経費の支出を伴うような契約を町が企業などと結ぶこと。

特別会計・水道事業会計は、職員の人事異動に伴う人件費などの補正を全員一致で可決しました。

国民健康保険

総額11億6233万円に

後期高齢者医療

総額1億1964万円に

介護保険

総額10億5421万円に

公共下水道

総額4億484万円に

農業集落排水

総額2億9038万円に

水道事業資本的支出

総額2億1517万円に

たとえば…



バス更新で町をアピール

臨時会

条例改正

内 容	付 託	結果(賛否討論は付託委員会に類似)
個人番号の利用及び情報提供	総務	可決 賛成7 - 反対3
個人番号カードの利用	総務	可決 賛成7 - 反対3
町民カードの利用	総務	可決 賛成7 - 反対3
印鑑登録及び証明	総務	可決 賛成7 - 反対3
手数料徴収条例	総務	可決 賛成7 - 反対3
税条例等の一部改正	総務	可決 賛成10 - 反対0

陳情の本会議審査結果

内 容	提出者	付託	結果(賛否討論は付託委員会に類似)
沖縄基地関連2件 (辺野古新基地建設撤回)	平和って何だ・伊那谷	総務	不採択 賛成3 - 反対7
	奄援塾	総務	不採択 賛成3 - 反対7
安保法関連2件 (安保関連法の廃止を)	いいじま九ちゃんの会	総務	不採択 賛成4 - 反対6
	上伊那地区労	総務	不採択 賛成3 - 反対7
TPP関連3件 (合意撤回を) (万全な施策を)	上伊那地区労	総務	不採択 賛成3 - 反対7
	上伊那農民組合	総務	不採択 賛成3 - 反対7
	JA上伊那	総務	趣旨採択 賛成10 - 反対0
宮田産廃処分場反対	宮田の環境を守る会	総務	採択 賛成10 - 反対0
労働基準法改定案の撤回	上伊那地区労	総務	不採択 賛成3 - 反対7
介護労働者の処遇改善	県医療労連	社文	採択 賛成10 - 反対0

議員発議

内 容	提出者	結 果
東日本大震災復興と 災害対策強化	坂本 紀子 議員	可決 賛成10 - 反対0 決議
地方創生の推進	竹沢 秀幸 議員	可決 賛成10 - 反対0 決議
町村税財源の拡充強化	中村 明美 議員	可決 賛成10 - 反対0 決議
TPPに関する決議	久保島 巖 議員	可決 賛成10 - 反対0 決議
参議院選挙制度改革	久保島 巖 議員	可決 賛成10 - 反対0 決議
日米地位協定の見直し	浜田 稔 議員	可決 賛成10 - 反対0 決議

意見書

内 容	提出者	結 果
介護労働者の処遇改善	竹沢 秀幸 議員	可決 賛成10 - 反対0
TPP交渉大筋合意	本多 昇 議員	可決 賛成10 - 反対0
宮田産廃処分場反対	坂本 紀子 議員	可決 賛成10 - 反対0

目標人口を 9500人に 下方修正

平成27年第3回臨時会が
11月26日に開催されました。

補正予算案件2件、構想計
画の修正策定案件2件を審議
し、いずれも全員一致で可決
しました。

◇基本構想一部変更

平成32年度を目標とする基
本構想は、これまで10500人を
目標人口としてきましたが、実
態に合わせ9500人に下方修正
しました。

◇後期基本計画策定

後期計画は平成28年度からの
新たな5カ年計画で、重点プロ
ジェクトに基づく基本施策を定
めました。

◇補正予算

町議会議員補欠選挙予算、地
方創生関連予算などで補正後の
総額は47億2242万円となりま
した。

その他、議員辞職に伴う補欠
選挙により、新たな委員会編成
を行いました。(8ページ参照)

マイナンバー制度で論議

補正予算審査

平成27年度一般会計・特別会計・事業会計補正予算の分割付託分を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

ただし、番号カードに係わる条例審査の前に関連予算が審査されたことは不適切でした。

条例審査

個人番号利用等に関する法律の施行に伴い、町条例の新設および一部改正6件を審査し、可決すべきものと決定しました。

- ◇個人番号の利用及び情報提供
 - ◇個人番号カードの利用
 - ◇町民カードの利用
 - ◇印鑑登録及び証明
 - ◇手数料徴収条例
- (上記5条例) 賛成3 反対2

反対

- ・周知が十分でなく、住民の利便性が向上するとは思えない。
- ・情報の漏えいが懸念されるマイナンバー制度に反対。

賛成

- ・不備な点はあるが、行政サービス停滞はできない。

- ◇税条例等の一部改正
- 賛成4 反対0

陳情審査

不採択

沖縄基地関連

辺野古新基地建設即刻中止を

提出者 平和って何だ・伊那谷
すみ のりかず
角 憲和氏
賛成2 反対3

辺野古新基地建設を白紙に

提出者 竜援塾
なかがわ まさとし
中川 賢俊氏
賛成2 反対3

◆ 内容

沖縄県の民意を尊重し辺野古への新基地建設を白紙に戻すこと。

反対

- ・普天間の一日も早い撤去のためには辺野古が最適だ。

賛成

- ・犠牲を沖縄に押しつけることは問題だ。
- ・沖縄と国の問題ではなく、国民の課題として根本的に議論の必要がある。

不採択

安保法関連

安保関連法案の廃止を

提出者 いいじま九ちゃんの会
たかはし かずえ
高橋 和恵氏
賛成2 反対3

戦争法の廃止を

提出者 上伊那地区労
まえだ よしゆき
前田 是幸氏
賛成2 反対3

◆ 内容

飯島町議会議決に基づき安保関連法の廃止を。

反対

- ・戦争を未然に防ぐための抑止力をたかめるもので、町の宣言とは矛盾していない。

賛成

- ・前回の反対の決議を継承すべきだ。町の宣言・憲法に反するものだ。交戦権を容認するもので看過できない。
- ・世論の過半数は法に反対。

不採択・趣旨採択

TPP関連

TPP参加に反対し、情報公開と審議の徹底を

提出者 上伊那地区労
まえだ よしゆき
前田 是幸氏
賛成2 反対3

TPP交渉の合意撤回を

提出者 上伊那農民組合
たけがみ かずひこ
竹上 一彦氏
賛成2 反対3

◆ 内容

国会決議に反する合意は撤回し、協定への調印・批准は行わないことを求める。

協定内容の公開と説明、農業・農村を守るため万全な施策を。

反対

- ・大筋合意されたが、農業対策などの施策がなされる。

賛成

- ・情報開示されている部分だけでも国会決議を逸脱している。大筋合意は撤回すべき。

TPP大筋合意に万全な施策を

提出者 JA上伊那

みこしば しげき
御子柴 茂樹氏

趣旨採択4 反対0

- ・農業団体としての現状を訴えている主文は理解できるが、記書の部分とずれがあるので趣旨採択。

採 択

放射能を含む最終処分場反対を

提出者 宮田の環境を守る会

たなか いちお
田中 一男氏

賛成4 反対0

◆ 内容

事業許可を与えないよう県・県議会に要請する。

賛成

- ・設置場所・構造的に放射能漏えいの懸念がある。周辺地区・下流域の問題でもある。県外からの持ち込みに反対。

不採択

労働基準法改定案の撤回を

提出者 上伊那地区労

まえだ よしゆき
前田 是幸氏

賛成2 反対3

◆ 内容

労働時間規制解除は健康被害につながり、改定案撤回を。

反対

- ・創造的な能力発揮や様々な働き方に対応でき、健康保持できるものだ。

賛成

- ・経営側の都合で導入されるもので、先進国の事例では長時間労働を引き起こしている。

新たな 事業分野を模索

町社会福祉協議会が運営する地域福祉センター「石楠花苑」と地域自立支援事業所「こまくさ園」を視察研修しました。12/15

町社協の経営状況を聞き取りました。収入の半分以上を占めている介護保険事業が報酬改定などにより減収となり、厳しい経営に直面しているとのことでした。そこで経営基盤確立のため、新たな福祉事業分野の検討をすすめています。

こまくさ園では、利用者が生きいきと作業をしている状況を視察しました。町内外から利用者也増加しています。カレンダーや芋干しなどの物販が作業報酬の重要な財源です。町民の皆さんも障がい者の自立支援のため購入にご協力ください。



生きいき作業する利用者

補正予算審査

平成27年度飯島町一般会計・特別会計補正予算の分割付託分を審査し、全会計を全員一致で可決すべきものと決定しました。

賛成

障がい者・生活困窮世帯支援事業などの財源確保を評価。

採 択 陳情 国へ

介護労働者の処遇改善を

提出者 県医療労連

ぎんこ
小林 吟子氏

賛成4 反対0

◆ 内容

介護労働者の処遇と人員配置基準の改善を求める。

賛成

- ・必要な人員確保のため、労働に見合う処遇改善は必要。

議会構成かわる

平成27年11月～

9月議会で松下議員（議長）が総務産業常任委員を辞任、また北沢正文議員の辞職にともなう町議補選で滝本登喜子氏が当選しました。

11月26日の臨時会より、議会構成は下記のようにになりました。

総務産業委員会

委員長／久保島 巖 副委員長／本多 昇
委員／橋場 みどり 浜田 稔 坂本 紀子

社会文教委員会

委員長／中村 明美 副委員長／折山 誠
委員／滝本 登喜子 堀内 克美 三浦 寿美子
竹沢 秀幸

議会運営委員会

委員長／坂本 紀子 副委員長／久保島 巖
委員／折山 誠 浜田 稔 中村 明美

議会広報委員会

委員長／浜田 稔 副委員長／橋場 みどり
委員／本多 昇 滝本 登喜子 折山 誠 竹沢 秀幸



追跡

あれどうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情その後のゆくえ

平成25年6月議会 一般質問

問 公共施設の屋根に太陽光発電を。

答 収入を得るための有効な手法だ。
具体的に進めたい。

その後

平成26年10月

役場庁舎と文化館の屋根に設置。
出力各50kW(約20世帯分)



平成26年6月定例会 一般質問

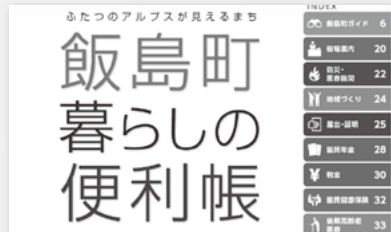
問 「暮らしの便利帳」で行政への理解度を
高めては。

答 民間活用など検討したい。

その後

平成27年7月

官民協働で地域・生活情報誌「暮らしの便利帳」を発行し、町ホームページにも掲載。



下平町長の就任にあたって

町議会議長 松下寿雄

就任、誠におめでとうございます。

少子高齢化と人口減少の中で町の最大の任務は、住民の安全安心の探求・住民福祉の向上と思っております。

また、観光や文化を通じた交流人口の増加、定住促進の施策が実を結んでいくには、行政側の“やる気”や“本気度”が、住民側には“まちづくりに積極的に参加”の意識改革が求められると思うところであります。

二元代表制により町政の一翼を担う町議会としても、是々非々の立場で「豊かで明るく、住みよい、安全安心な飯島町の実現」を図って参ります。

「新しい風」下平町長への町民の期待は大なるものがございます。重責を負われる中、健康にご留意の上ご活躍いただきますようお願い申し上げます。

3 議員に地方自治功労表彰

県町村議会議長会より飯島町議会の下記3議員に、地方自治への功績をたたえる表彰状が授与されました。



三浦 寿美子 竹沢 秀幸 坂本 紀子

一般質問



ここが聞きたい

10 議員が質問

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 久保島 巖 | 目標15000人
基本構想との整合性 …… P10 |
| 坂本 紀子 | 観光振興
取り組みの方向は …… P11 |
| 三浦寿美子 | 予算編成
概要公開で住民参加を …… P12 |
| 橋場 みどり | 移住・定住
どう図る人口増 …… P13 |
| 竹沢 秀幸 | 儲かる飯島町へ
農産物海外輸出を …… P14 |
| 折 山 誠 | 町民の総合力
どう引き出す …… P15 |
| 中村 明美 | トップセールスマン
現場主義を第一に …… P16 |
| 滝本登喜子 | 男女共同参画社会
より実践的な組織に …… P17 |
| 浜 田 稔 | 教育での経済格差
早期に支援の手を …… P18 |
| 本 多 昇 | ビジョンと政策
どこが低迷しているか …… P19 |

「一般質問」とは
行財政にわたる議員主導による政策の議論です。(通告順)



久保島 巖

目標
15000人

基本構想との整合性は

町長の心意気

町長

問 基本構想で5年後の人口目標は9500人。町長の公約とは差がある。整合性をどう考えるか。

町長 9500人はデータに基づいたもので尊重したい。15000人は町長の心意気としたい。

問 15000人を掲げる一方、人口が減っても元気なまちづくりは可能だとも言っている。データや裏付けのない数値目標は民間感覚とは言えない。真意は。

町長 大きな目標で人心を掌握し、奮い立たせるのが政治手腕と心得る。数値設定より、知恵

を出し行動を起こさせるよう喚起することが重要と考える。

政策協定の意味は

問 選挙戦の中、町内の特定団体との政策組織協定を結んだが、町民党を唱える姿勢と相反している。その意味を問う。

町長 多くの意見を聞くことや民意の掌握は重要と考える。どこが「町民党」に反するか。

問 意見交換は大いにやるべきだが、特定団体との協定を組むことで偏りはないのか。

町長 今後の政策決定の中で、民意の多数はどこにあるかを考慮していく。話し合いの中で、共通点を確認し意見交換を続けることを確認したものだ。

問 協定の中には、前町長政策の堅持や考え方の継承が記されている。町長自身の考えや行動を制限されるような表現に見える。今後の足かせにならないか。

町長 精神を言っており、何ら制限を受けない。国政やイデオロギーに関したものは一切ない。

飯島町営業部とは

問 飯島町営業部の位置づけは。

町長 外核団体を考えているが、「まちづくりセンターいいじま」や「観光協会」とは別組織。

町民が企画したプロジェクトに行政支援をし、多くの町民が自ら参加できるものにしたい。

問 具体的にはどんなものを考えているか。

町長 アルプスのお花畑もその1つ。現に田切・飯島地区でも名乗りを上げている。先進地で学び最適なものを研究し、町民の力を借りればできる。

ほかにも間伐材を使った農地付き格安住宅や、6次産業化での商品開発などが考えられる。町民の自由な発想で、町を売り出していきたい。

問 「国・県・行政に頼らず、自主財源を稼ぎ出すよう住民が奮い立たないと町は消滅する」と話された。町民に自らの知恵と汗を出すことを喚起する内容が、国県議員に伝わっていない。「国・県に頼らず」だけが独り歩きし誤解を与えている。真意を町内外に知らせるべきだ。

町長 他人任せでなく自分たちで立ち上がろうと町民の意識喚起をしたものだ。

町が国や県の支援・交付金無しでやっていけるはずもなく、自主財源だけで運営できないことは常識。そのような誤解はもってのほか。議員の広い交流の中で真意を伝えてもらいたい。

〔以上3件質問〕



世界一のステージとなるか

観光振興

取り組みの方向は

観光と定住促進は一体 町長



坂本 紀子

問 観光振興のこれまでの取り組みをどう評価しているか。

町長 知名度不足であり、町産品の販売拡大につながらず物足りない。2つのアルプスがある景観は世界一のステージで、お花畑や農地付きクラインガルテンなどで観光の拠点としたい。

問 与田切公園から千人塚一帯の観光のあり方を、チームを作り計画的に進めては。

産業振興課長 ここ数年で、与田切沿川は与田切ネットワーク・植栽ボランティアにより整備された。現在、中央アルプスは国定公園へ検討中。平成28年度に策定する観光基本計画で内容や組織を検討する。

問 紅葉園の運営方法はどうするのか。

産業振興課長 現在、数件の希望があり公募する。本年度中に運営方法を詰めたい。

問 千人塚の桜の老木対策を、地域や樹木医と相談し早急に検討すべき。また、与田切公園の八重桜の間伐が必要では。

産業振興課長 桜は80年を過ぎた。地域の皆で管理してきたが回復しない。樹勢の回復か樹種転換かを地域と検討。八重桜は弱っている木もあり、間伐など適正に管理していく。

問 千人塚には大型バスが入れない。今後の対策は。

産業振興課長 与田切溪谷も含めた中で循環バスなどの研究をしたい。

問 与田切公園から坊主平までの川沿いの道に、ウッドチップを撒いてと要望がある。

また、10年ほどモミジの植栽をしてきたが土壌が悪く育ってない。樹種検討も必要では。

産業振興課長 道路管理者の協力を得て公園内の立木を活用して撒く。

モミジは春も秋も楽しめる。シカから守るための柵を設置以後は順調に生育。ナラ・コナラも植栽しているが、今後は全体の植生を見ながら研究。

問 体験型の観光とはどのようなものか。

町長 私は都会人の人間回帰・

田園回帰をNPO活動から学んだ。田植え・稲刈り・里山の田舎暮らしや文化の体験などが町の資源だ。

観光が活発になれば、住みたい人も出てくる。観光と定住促進は一連のもの。

人事に対する考えは

問 風通しの良い行政や人事の基本は何か。

町長 行政はサービス産業。町民と職員の気楽な意見交換が大切。そのために町民との各種会議には、担当以外の職員も同席し、町民と交流する中で勉強させる。個々人のスキルを上げ、人間性を高める努力が必要。

人事は適材適所だが年功序列も必要で柔軟に対応したい。希望の持てる人事が活性化の源。

〔以上2件質問〕



美しい中央アルプスを望む



三浦 寿美子

予算編成

現状でも意見を尊重
町長

概要公開で住民参加を

問 予算案概要を公開し、住民の意見を受けて新年度予算を策定するよう提案するが。

町長 町民の意見を受けて予算を策定することが大切であると考えている。

今までも、町民の意見を尊重した中で政策が策定され、予算が編成されてきていると思う。

二元代表制で議員も参加し意見を聞く機会もある。

企画政策課長 町には基本計画があり、さらに実施計画で具体的な行政運営に努めている。

特に実施計画は、毎年ローリングを行っており、議会や町民

に策定後公表し意見を受ける場を設けている。

まちづくり懇談会でも意見要望を聞いているので、予算にはある程度意見が反映したものになっている。

問 阿智村では、村長が予算編成の初段階で住民や自治組織の意見を聞き、住民の望んでいる施策は何かを見極めたうえで予算編成を行っている。

『住民参加と編成過程の透明度をより増していくことで、住民主体の行政を進めていきたい。』と村長が述べている。

阿智村に学び今後に生かすべきでは。

町長 実現するにはどういう体制をとるのか、町の規模はどうなのか、歴史も関わってくる。

理想は理想として、勉強するには値すると思う。

問 翌年度の予算に住民意見が生かせるように、現年度の予算執行状況と事業の進捗状況を中間報告するように提案するが。

町長 行政運営をするうえでは、今までの経験が一番良いのではないかと考える。

企画政策課長 議会での議論が深まり、中間報告が必要となれば対応を検討する。

循環バス活用の構想は

問 町長の公約に買い物弱者を救済する「買い物バス」がある。どのような構想か。

町長 高齢化率33%、買い物が困難な人の心配も聞いている。循環バスを活用して買い物利用ができないか。自分で移動できない人のために移動購買車、商品を届けるシステム、互助会などがあれば不都合が解消できるのではないかと考えている。

来年オープン予定の「道の駅田切の里」で移動購買車を設置する計画もある。

問 利用が低迷している循環バスのあり方についての考えは。

町長 デマンドとか予約とか利用の仕方がなかなか理解されない部分と、利用に遠慮もあるのではないかと。気軽に使えるバスということを説明していく必要があると思っている。

問 デマンド中心の運行になり約1年が経過した。見直しが必要では。

総務課長 運行開始から9カ月経つので、検証が必要と考えている。

年明け早々にも生活交通確保対策協議会を開催したい。

〔以上2件質問〕

5-3 賑わいある商店づくりの推進

賑わいある商店づくりの推進

- ① まちなかの活性化
- ② 商業の活性化
- ③ 新たな商業集積地の形成と既存商店の振興

5-4 活力ある工業の振興

活力ある工業の振興

- ① 企業立地の促進
- ② 既存中小企業の育成支援
- ③ 新たな産業の創出
- ④ 労働環境の充実

コード	事業名	事業概要	事業費	事業費
	事業名	主な事業内容	28年度	29年度
4111	商工総務費	・商工労務総務費 ・勤労者互助会推進事業補助金 ・未就労者等支援団体交付金 ・町振興資金貸付補助 ・町振興資金貸付補助 ・町振興資金貸付補助 ・企業振興補助金 ・商工会活動補助金 ・産業まつり補助金 ・【新規】小規模企業情報発信事業補助金、 ・特定次産業振興支援 ・R29企業誘致促進事業補助金	234	234
4121	商工業振興費		152,071	156,299
4162	企業誘致費	・企業誘致活動推進費 ・立地企業支援、雇用拡大支援	552	675

予算編成に住民の声を！

移住・定住

どう図る人口増

おもてなし精神から 町長



橋場 みどり

問 町の移住者は、2011年から4年間で199人だ。

全国で最も移住者の多かった豊後高田市でも、年間114人だ。この結果からみて、15000人をどう増やすのか。

町長 定住促進が人口増の原動力になっているが、これまでの手法は飯島町に住みたい人を探りあてる範囲にとどまっている。

第一段階は交流人口を増やす。それには、観光産業が必要だ。お金をかけずに地域の資源（農地）を使って、お花畑にする。花だったら一年で咲き、結果が出やすく美しい。それを世界一のステージに加え、アルプスのお花畑として売り出していく。

問 移住者の多い町は、施策ではなく「人」からによる場合が多い。町づくりは「人」からと思うが人材育成をどう考えるか。

町長 町全体がおもてなし精神を磨き上げること。観光から一歩を踏み込めば定住も進む。町全体で、おもてなし精神を機会あるごとに勉強していきたい。

問 島根県では、定住支援コーディネータがワンストップで定住者の世話をしている。町役場にも置いたらどうか。

企画政策課長 定住促進室がワンストップ窓口で対応しており、職員全体でも各窓口で、コーディネータとして役割を果たしている。

選挙年齢引下げ対応は

問 18歳からになるが、どこに力を置き教育をするか。

また、連座制など民法との関わりをどう考えるか。

教育長 児童会や生徒会の役員

選挙をとおして、偏らない考えで自分たちの代表を選んでいく仕組みを学んでいる。

選挙管理委員長 買収など連座制の対象になる違反を犯した場合、少年法の特例で成人と同じ刑事処分になる。

問 中学生にアンケートを実施したか。出前授業など対応を考えているか。

選挙管理委員長 アンケートはしていない。要請があり、出前講座であれば準備を進め関心を高めていく。学校とも綿密な連携を取り進める。

教育長 アンケートや学習は学校判断にゆだねる。

問 義務教育の中でしっかりした主権者意識の土台作りが重要だ。どう指導教育するか。

教育長 選挙は、主権者としての権利を行使する大切な機会。関心を持つことは大事だ。

文化館にプロジェクタを

問 映画のデジタル化に対応できるシネマ用プロジェクタ設置要望があるが。

教育長 機器更新にあわせ検討し、最善の映像環境を整えたい。

〔以上3件質問〕



お・も・て・な・し



竹沢 秀幸

儲かる 飯島町へ

農産物海外輸出を

まず地産地消を 町長

儲かる飯島町へのチャレンジ



リハーサル・町長記者会見

問 飯島町を世界に売り、インバウンド事業*につなげるため、課題は多いが、農産物の海外輸出に取り組むよう提案する。

* 海外からの誘客

町長 「儲かる飯島町」の公約は、基盤をつくり、そこで儲けて税金を増やすことである。

農業は町の基幹産業であり、支援は重要である。

国ではT P Pに関連し海外輸出が課題となっているが、町の農産物はまず町内での地産地消が必要である。系統による流通も必要。

産業振興課長 和食ブームもあり、農産物のみでなく食材の輸出を含めて取り組む必要がある。今後、J Aや長野県などと連携し海外輸出を検討する。

問 飯島ファンを増やすため、来年7月オープンする道の駅「田切の里」と七久保の道の駅「花の里」双方で利用できるポイントカードを提案するが。

町長 飯島町に2つの道の駅ができることは画期的である。

ポイントカードは販売促進の手法となる。

産業振興課長 共通のポイントカードを7月オープンまでに検討する。

問 町長の定期的記者会見を提案するが。

町長 風通しのよい行政のため、定期的に現状を伝えることは町民党として必要であり、前向きに取り組んでいく。

問 町長が構想する「地域通貨制度」とはどのような仕組みか。

町長 農産物の地産地消を進めたい。町民が手間不足の野菜農家などを自主的に手伝い、手間賃をポイント「飯島通貨」で支払う。

ポイントは町の農産物を買うときに利用できる制度である。

構造改革特区の手法を

問 公約「田舎暮らし日本一へのチャレンジ」実現のためには、都市住民が田舎に求めるニーズに応える必要がある。

現行農地法制度では農家以外は農地の取得ができないので、宅地続きで500㎡の農地が取得できるような構造改革特区を国に提案すべきだが。

町長 農地付きの格安住宅を公約で提案してきた。大きな産業振興につながる事業である。

産業振興課長 遊休荒廃地は100㎡まで取得できるが、町には遊休荒廃地が少ないため特区の検討も必要だ。また、農地中間管理機構を活用して農地の借用は可能だが、10年間の期限制限があり、特区での規制緩和が必要となる。特区を活用した格安の農地付き住宅を考えていきたい。

〔以上2件質問〕

町民の 総合力

どう引き出す

活動に経済性を付加 町長



折山 誠

問 町長はこれまで、町政懇談会出席や町内のボランティア活動参加の経験は。

町長 ほぼ無い。

問 町民の多くが、それぞれの事情で町懇談会やボランティア活動に不参加だ。こうした町民の総合力をどう引き出すか。

町長 会議のみではだめ。住民活動に経済性を付加させることが肝要だ。

公約実現スケジュールは

問 4年間の任期だ。公約実現のスケジュールは。

町長 選挙戦で示した公約には、ゼロ予算で実施できるものがあり、直ちに着手する。その他は、行政部内の調整で私の思いを職員に共有してもらった後、優先順位をつけ逐次事業化したい。

公約と現構想との整合

問 町長の掲げる急激な人口増施策は、核となる事業の優先度など現構想・計画推進に影響しないか。

町長 影響はない。総合計画目標人口9500人には根拠があり尊重する。

その上で15000人の目標を私自身に課し、自らを鼓舞し、その上積みに努める。

問 町長は、民間感覚の行政運営を掲げ、町政に新しい風が吹く予感を町民に与えた。いつどのような風を吹かせるか。

町長 長い間、行政出身者による町政が続いてきた。

今、私が町長としてこの場に、新しい風の象徴だ。

定住促進施策

問 近年定住促進が進み、移住者と自治会との間で未加入者問題など課題が生じている。さらなる定住促進に向け、克服の策はあるか。

町長 夢や希望をもって移住して来た人が、自治会などとの摩擦で、建てたばかりの家を残して転出する事例などには心が痛む。

「大縁会」などの機会をつうじて相互理解を深めたい。

予算に町民の声どう反映

問 物言わぬ町民の声をどう吸い上げ、多岐にわたる声をどう反映させるか。

町長 私の政策が支持され、町長に就任した。その政策を進める予算が民意の反映だ。

〔以上5件質問〕

町民の総合力でまちづくりを



社協ボランティアXmas



中村 明美

トップ セールスマン

現場主義を第二に

意思疎通を図る 町長

問 施政方針で「儲かる飯島町」にして後継者を生みだしていきたい！また町長はまちを売り込む「トップセールスマン」となると掲げている。トップが現場に足を運んでいる企業は発展しているということからも、「現場第一主義」に徹してほしい。

顧客満足度を上げるには生産者・迎える側のモチベーション（動機づけ・意欲）を高めていくことが大切では。

政策実現への信念と「トップセールスマン」として一番大切にしていきたいことは。

町長 ビジョンをしっかりと持って動くこと。原動力は町民。常に町民と交流し、モチベーションを上げていくことは大事だ。実現に向け町民と意思の疎通を図っていきたい。

子育て支援の促進を

問 子育て支援センター移転拡張に対する考えと、検討状況は。

町長 若いお母さんたちからセンターの現状など聞き、改善の必要性を認識している。

教育長 現在移転・拡張を含め研究中で、利用者や有識者の意見を参考に、保育園環境など含め多面的に検討している。



広いお部屋まちどおしい

問 妊娠初期から子育て期にかけての支援策として「子育て応援アプリ」が注目されている。先進事例として世田谷区があるが、当町も検討しては。

教育長 開発費に数千万円掛かり、当町には高いハードルである。今後は、ホームページを活用し、世田谷アプリのように分かりやすい情報提供に努めたい。

問 国は、次世代育成支援対策推進法を改正。この制度で「プラチナくるみん認定」*が受けられ、企業広告にマーク掲載や税制優遇措置もある。制度を町企業に周知し、子育て世代が働ける条件を整えてもらうよう要請指導を。

*子育てサポート実績を国が認めた企業

教育長 本年「子育てママの勉強会」を開催しており、企業からも数名参加があった。このような機会を重ね、町内企業に子育て環境整備への意識を高めてもらうよう図っていきたい。

職員の人材育成を

問 町長の「風通しの良い行政」での人材育成として、専門資格や技術の習得、また国際社会にも対応できる職員育成の考えは。

町長 町民に育ててもらう機会を与える。教育される側とする側の勉強会・国際感覚のある人の採用。いろいろな面からバランスの良い職員に育てたい。

問 27年度定期監査報告書に「代休制度は依然として取得率が低い」とあった。この指摘をどう受け止めているか。

総務課長 まずは本人が健康管理を意識する中で、代休は取得すべきものとの認識を持ってもらい、職場全体に協力体制を促していきたい。

〔以上3件質問〕

男女共同
参画社会

より実践的な組織に

方法を検討 教育長



滝本 登喜子

問 「男女共同参画プラン」策定から17年経過したが、身近な共同参画は目に見えていない現状だ。

「男女共同参画社会推進懇話会」を实践・実行する会に見直してはどうか。

あわせて名称も推進委員会あるいは推進協議会などに変更することを提案するが。

教育長 共同参画プランで啓発活動を行ってきた。検証してみると、一例として共同参画の地域づくり講演会を計画し地域組織の関係者に参集してもらった。また、広報に「ジェンダーまんが」を掲載している。

共同参画は地味で成果が表れにくい。名称を変えれば推進ができるということではないが、名称・実践の方法を事務局と検討していく。

問 委員の選出区分を見直してはどうか。所属組織・団体などの意向がより発揮できる人材が望まれる。

若者や企業関係者など多様な分野からも選出してほしい。また、農業関係組織からは参加していないので、農村生活マイスターを加えたらどうか。

昨日は『人づくりは町づくり』という町長答弁があった。こうしたマイスター制度のように、女性の学ぶ機会を増やすこ

とが重要だ。そこで学んだ人材を活用し、共同参画推進を望む。

教育長 今年度、知識経験者は婦人教育推進協議会から2名。

一般公募は無く、前任者に今回もお願いした。こういう委員会に積極的に応募する人は少ないが、議員提案の農村生活マイスターや適任者に積極的に働きかけていきたい。

問 耕地自治会など、最も身近な政策決定の場で、女性の登用がなされていない。

区・耕地自治会役員に対して、毎年1回男女共同参画資料の説明がなされるだけである。

資料説明の他により実践的な方法として、女性教育研修者の話を聞くなどしてはどうか。

年度当初は役員が決まってしまうので、年度途中での役員研修会を開催し、次年度の女性役員選出を見据えた取り組みを求めるが。

教育長 役員会は事務的資料説明にとどまっている。

出前講座・イベントへの参加など、いろいろな機会をとらえて周知しているが進んでいない。

女性教育研修者など、適任者がいたら情報を提供してもらいたい。

また、広報・情報誌にコーナーを設けて投稿してもらうなど具体的に検討を進めていく。

〔以上1件質問〕



今夜はパパの番



浜田 稔

教育での 経済格差

横の連携で^{すく}掬い上げる
教育長

早期に支援の手を

問 経済的な困難から行政支援を必要とする世帯が増えていると聞く。実情は。

教育長 5年前は34人だったが今年度は87人に増え、予算の補正が必要になった。一人親・失職・外国籍で就労難などが大きな理由だ。経済格差が教育格差にならないことが大前提だ。

問 支援世帯の把握漏れも懸念される。子どもは自分で解決できない。早期に支援体制を取るべきだが。

教育長 家庭訪問や学校生活の

観察、民生児童委員との情報交換など横の連係で、早期に掬い上げるよう努める。さらに情報を寄せてもらいたい。

問 町内には“引きこもり”の長期化や高年齢化が少なからずあると思う。現状と対応は。

教育長 義務教育終了後は教育委員会として把握しにくい。家庭相談員を介して個々に対応し、成果もあるが研究段階だ。

健康福祉課長 全国的にも問題視され、厚労省は「6カ月以上社会参加を拒んでいる現象」と定義している。原因は様々で家庭にまで踏み込むのは容易でないが、ワンストップで各課横断的な仕組みを研究中だ。教育・医療・福祉・就労までを視野に、来年度からスタートしたい。

農地付き定住型の住宅を

問 全国各地でクラインガルテン（農地付き住宅）の取り組みがある。都会人が週末を過ごす小規模型が多い。一方町内には絶えず遊休農地が生まれている。

家庭菜園ではなく、生活の一部として農業を営める10アール規模の定住型を提案するが。

町長 選挙で提案したのは週末型で2地域居住だ。退職世代が中心かも知れないが、社会的経験を当町で活用することや家族の呼び寄せなどを期待している。法律面も含め研究段階だ。

産業振興課長 農業で生活の一部を支えることすら容易でなく、他に様々な雇用がある町にすることが必要だ。

週末型から定住型まで、具体的な姿をきちんと捉えながら研究したい。

スリムな組織で活力を

問 町内の組織には当て職や形式的会議はまだ多い。行政の管轄する組織が先例を示し、スリム化を進めるべきだが。

町長 委員会や審議会は必要性があって生まれてきたものだと思う。同時に、改革は常に行政の使命であり、具体的な提案を受けながら進めたい。

企画政策課長 法や条例で定められた組織もあるが、議会の意見も入れ、適宜見直してきた。若返りも進んでいると思う。

〔以上3件質問〕



本場ドイツのクラインガルテン

ビジョンと 政策

どこが低迷しているか

日本全体だ 町長



本多 昇

問 「低迷からの脱出」今までの政策が悪く、町が低迷し危機に陥っているかのようだ。

財政は危機的状況ではなく、健全な運営を行っている。

町のどこが低迷しているのか。

町長 日本の長引くデフレの波にのまれている。

町は、農業・商業も後継ぎがいなくなり、商工会の会員も減少していることに表れている。

問 町の人口現状分析で将来の目標を9500人に変更した。

9500人でも豊かで満足できる町にすべきだが。

人口目標1万5千人は可能か。

町長 心意気だ。町は12000人の実績がある。第一の目標は9500人に置き、緩やかなカーブで15000人に向かって努力する。

問 自主財源が確保できる元気な町として町税を増加させることは最も重要。選挙戦では、国・県の補助金に頼らない行政運営を展開する主張と受け止めた。

自主財源だけで住民要望に応えられるのか。

町長 自主財源だけでは運営できない。国・県の補助に頼らなければ、町がやっていけないことは常識だ。



『新しい風』

嵐が吹くか！

問 特定政党と定期的に政策を協議する事となっている。

すべての政策策定は特定政党との協議で決定するのか。行政運営に支障はないか。

町長 まちづくりについては話し合いをするが、政策決定の根拠は、町民の多数の意をもって決める。二代表制である議会とも協議する。

28年度予算編成

問 編成方針は施策の重点部分が変わるだけで、内容は毎年同じだ。初めての予算編成となるが、どのように対応するのか。

町長 予算が伴わない公約事項はすぐに実施するよう職員に指示した。予算を伴う事業はこれから決める副町長と相談する。

問 新町長としてスタートする28年度は重要だ。公約した事業の取り組みは。

また、予算編成に間に合うか。

町長 公約した事業を実現して行きたい。法制関係もあるので、できるものから優先順位を決めて着実にやる。ゼロ予算のものはすぐにやる。編成に間に合うものから実施する。

呼称の統一

問 「自治会を使う」が60.3%という意識調査の結果だった。住民の知恵と行動を結集することで、未来への道が開けると町長は住民に期待している。

呼称の統一もできない行政では、住民を結集できるわけがない。「新しい風」のスタートとして4月から自治会に統一しては。

町長 各地区や耕地の自主的な判断に従うが、議論を深めることは地域の活性化につながる。

〔以上3件質問〕

町民の声を議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回は、「いいじま手打ち蕎麦の会」会長 熊谷功さんに登場していただきます。

「信州蕎麦のふるさと」で町おこし

当会は、JA飯島支所および役場産業振興課の呼びかけに応じた町内の有志46名によって、平成24年10月に発足しました。現在会員数は116名を有しています。

当町は、信州そばの種の9割以上を生産しており、いわば「信州そばのふるさと」です。地域おこしを目標に会員一丸となって活動を展開しております。



早く食べたい

打ち講習会を開催（第5火曜日は休み）。講習会終了後は打ち立ての蕎麦を食べ、蕎麦談義で親睦交流。

2. 町内イベントの開催および参加

新蕎麦祭り主催の他、町・JA・社協主催のイベントなどに積極的に参加。

3. 都市との交流・町PR活動

斑鳩町や東大和市など県内外の各都市へも要請に応じて出向き、信州そばや町のPR活動を展開。

4. 地元蕎麦の消費拡大活動

寒晒し蕎麦まつり・新蕎

麦祭りなどにより信濃1号の宣伝および地産地消に取り組む。

町や議会に望むこと

26年12月には、会員が日替わりで勤務するそば店を出店しました。本年7月オープンの道の駅「田切の里」蕎麦コーナーへの支援や会員による新たな蕎麦店の出店も具体化しています。着実に「信州蕎麦のふるさといいじま」づくりが動いています。住民協働の観光振興として、会の活動への全面的なバックアップをご期待申し上げます。

会員募集およびイベント要請

初心者大歓迎。事業イベントの開催要請大歓迎。

連絡先／会事務局・JA飯島支所・役場産業振興課



女性の受講者が増えています

主な活動

1. 手打ち蕎麦を楽しむ活動

毎週火曜日の午後6時～
JA七久保支所調理室で蕎麦

議会だより

問題

役場庁舎と文化館の屋根に設置した太陽光発電の出力は約〇〇世帯分。

ヒントは
8ページ

正解者5名様にいいちゃん商品券進呈
(締切は2/29、発表は発送をもって代えさせていただきます)



応募要領
住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ
ハガキ・FAX・いいちゃんポストで、飯島町
議会事務局 議会だよりクイズ係宛まで

編集後記

新町長の初舞台、12月議会には58人が本会議を傍聴されました。

例年の3倍です。今後も町と議会の動きに関心をお寄せ下さい。

発行責任者 議長 松下寿雄

編集委員 ◎浜田 ○橋場

本多・滝本・折山・竹沢